石狩市こどもの権利に関する条例骨子

(パブリックコメント：一般用)

■なぜこどもの権利条例をつくるのか

こども施策を進めていくためには、市役所だけでなく、市民やこどもに関する施設など、石狩市全体で取り組む必要があります、そのための共通した基盤となるものが必要になります。

それが条例であり、こども施策を将来にわたって進めていくための法的根拠になります。

石狩市では、次の4つの理由からこどもの権利条例について検討しています。

1. 「児童の権利に関する条約」に保障された4つの権利を知る

4つの権利は、「生きる権利」、「育つ権利」、「参加する権利」、「守られる権利」です。

こどもは未来を担う大切な一人の人間です。

この4つの権利について、こどもを含め、すべての市民が共通理解を持つ必要があると考えます。

2. おとなが果たすべき役割を明確にする

こどもには、おとなの考えを押し付けてしまいがちです。

こどもを一人の人間として尊重し、おとなはこどもの権利を理解して、その権利を守るように努める必要があります。

3. こどもの権利が侵害されたときの救済体制を整備する

こどもが、虐待やいじめなどにより権利の侵害を受けたときには、速やかに救済する必要があります。

こどもの安全確保を最優先に、関係機関と連携して適切に対応したり、相談・救済体制を整備することも必要になります。

4. こどもまんなかまちづくりの推進

こどもは一人の市民であり、おとなと同じように意見や考えを持っています。

おとなは、こどもの意見や考えを受けとめ、こどものために最も良いことをいちばんに考えて、可能な限りそれを実現していきます。

■条例の概要

1. 条例の名称

条例の名称は、「石狩市こどもの権利に関する条例」とします。

2. 条例の骨子

前文

こどもは、それぞれが一人の人間として権利の主体であり、大きな可能性を持ったかけがえない存在です。あらゆる差別や不利益を受けることなく、夢や希望を抱き、幸せに生きる権利があります。

今、いじめや虐待、貧困などつらい状況にあるこどもがいたり、子育ての負担感や孤立感から不安を抱える保護者がいます。

石狩市のこどもたちは、自分らしくすこやかに成長していくために、次のことを願っています。

- 命が守られ、自分らしく成長したい
- 安心して遊んだり、休んだり、学んだりしたい
- 自分で考えて行動し、おとなと同じように意見を言いたい
- おとなは責任を持ってこどもを育ててほしい
- いじめや暴力、差別、虐待のない社会になってほしい
- すべての人にこどもの権利を理解してほしい

おとなは、心豊かで安心できる環境をつくり、愛情を持ってこどもを守り育てます。そして、こどもの声を聴き、意見を尊重して一緒に考え、こどものために最も良いことをいちばんに考える責任があります。

わたしたちは、手話が言語であることを認め合えるまち、協働しながらまちづくりをすすめるまち、市民が行政活動に参加するまちに住んでいます。

こどもたちの今と未来のために石狩市は、「こどもまんなかまちづくり」の考えのもと、どのような環境に生まれ、どのような状況で育っても、身近なところに安心できる居場所や頼れる人がいて、悩みや思いを話すことができ、相手も自分も大切にしながら、すべてのこどもがいつも笑顔で暮らせるみんなにやさしいまちを目指し、この条例を定めます。

1. 総則

(1) 条例の目的

この条例は、児童の権利に関する条約（平成6年条約第2号）、日本国憲法及びこども基本法（令和4年法律第77号）の理念に基づき、こどもたちが安心して自分らしくすこやかに成長していくため、こどもにとって大切な権利が将来にわたって保障され、総合的に施策を推進していくことを目的とします。

(2) 言葉の意味

- こどもとは、心身の発達の過程にある者をいいます
- おとなとは、こども以外の者をいいます
- 保護者とは、親と里親など親に代わってこどもを養育する者をいいます
- こどもに関係する施設とは、市内にある、認定こども園、保育所、学校、児童館、児童通所施設など、こどもが育ち、学び、活動するための施設をいいます

2. こどもにとって大切な権利

(1) 安全に安心して生きる権利

- 命が守られ、平和で安全な環境で、安心して暮らすことができます

- 愛情と理解を持って生まれ、健やかに成長することができます
- 障がいがあることや性別などの理由による、あらゆる差別を受けません

(2) 自分らしく成長できる権利

- 一人ひとりの能力や個性を伸ばしながら成長できます
- 自分にあった方法で学ぶことができます
- 遊ぶことも休むこともできます
- こどもであることにより、不当な扱いを受けません

(3) 意見を表明し、参加する権利

- 自分の考えや意見を表すことができ、大切に受け入れられます
- 必要な情報を得ることができます
- 自分の関わることについての決定に参加することができます
- いろいろな考えの人が集まって仲間になることができます

(4) 自分を守り、守られる権利

- あらゆる権利の侵害から守られます
- いじめや虐待などのあらゆる暴力から、心や体が傷つかないように守られます
- 秘密は守られます
- 失敗してもやり直すチャンスや支援を受けることができます

3. おとな等の役割と市の責務

(1) おとなの役割

- おとなは、こどもの権利が守られるように努めます
- 事業者は、仕事と子育てが両立できるような環境をつくるように努めます

(2) 保護者の役割

- 保護者は、こどものために最も良いことをいちばんに考えて、愛情と理解を持ってこどもを育てます
- 保護者は、安心して子育てができるように、必要な支援を受けることができます

(3) こどもに関係する施設の役割

- こどもに関係する施設は、こどものために最も良いことをいちばんに考えて、指導や支援を行いながら、保護者と連携してこどもを育てます
- こどもに関係する施設は、こどもの年齢や個性に応じて、こどもの主体的な活動を支えます
- こどもに関係する施設は、いじめや虐待などの防止に努め、相談しやすい環境を整えます

(4) 市の責務

- 市は、こどもの権利を保障するため、国や他の自治体、関係機関と連携、協力して必要

な支援をします

- 市は、保護者や子どもに関係する施設がそれぞれの役割を果たすことができるように、必要な支援をします
- 市は、子どもが自分らしく、安心して過ごすことができる居場所づくりに取り組みます

4. こどもの参加と意見表明

(1) こどもの参加

- こどもは、市民の一員として、市のまちづくりに参加することができます
- おとなは、こどもの多様な社会参加に協力するよう努めます
- こどもに関係する施設は、当該施設の運営と活動にこどもの意見を取り入れたり、こどもが参加したり、決定に関わることができるように努めます
- 市は、こどもに関する施策と計画の決定、これらの実施結果の評価などを行うときは、おとなと同じように、こどもにも市民として意見を表明できる機会を設けるよう努めます
- 市は、こどもが市政に対して意見を表明し、自ら施策の実現に関わるための多様な仕組みづくりを推進します
- 市は、こどもが社会参加の楽しさを味わうことができるよう、こどもの社会参加を促進するための人材の育成に努めます
- 市は、こどもの利用する公共施設について、その運営にこどもの意見を取り入れたり、参加できる仕組みづくりに努めます

(2) こどもの意見表明

- こどもは、自分の意見を表明することができます
- こどもは、意見を表明したことによる不利益を受けません
- こどもは、自分の意見と同じように、他の人の意見を大切にし、尊重します
- 市、おとなおよびこどもに関係する施設の関係者は、こどもが意見を表明しやすい環境の整備に努めます
- 市、おとなおよびこどもに関係する施設の関係者は、年齢、発達などの理由によって、自分の意思を正しく表現できないこどもに対して、その意思をくみ取り、必要に応じてこどもの意見を代弁するよう努めます
- 市、おとなおよびこどもに関係する施設の関係者は、こどもに関係のあることを決めるときはこどもの意見を聴き、その意見を尊重し、こどものために最も良いことが優先されるよう考慮します
- 市は、こどもの意見の表明が促進されるよう、こどもの意見の表明を支援する人材の育成に努めます

5. こどもの権利侵害に関する相談と救済

(1) 相談

- 市は、こどもの権利の侵害に対する相談体制を整えます
- 市は、相談の内容に応じて、教育・保育機関や他の相談機関等、必要な関係機関と連携

し、状況の改善に努めます

(2) 救済

- 市は、いじめや虐待など、権利の侵害を受けた子どもとその保護者に対して、速やかに適切な救済と回復を支援するために「子どもの権利救済委員」を条例に基づく附属機関として設置します
- 市は、権利の侵害を受けた子どもやその保護者が救済を求めた場合、二次的な被害が起らないよう、最大限の配慮をします

6. 条例を推進するためのしくみ

(1) 推進計画の策定

- 市は、総合的に子どもの権利を保障するため、子どもの権利推進計画を策定します
- 子どもの権利推進計画は、市の子ども施策に関する基本計画（石狩市子どもビジョン）に位置付けます

(2) 計画の推進体制

- 市は、子どもの権利に関する施策の進行状況について、毎年度調査します
- 調査結果は、石狩市子ども・子育て会議に報告し、評価と意見を求めます

(3) こどもの権利の普及啓発

- 市は、市民に対し、こどもの権利の普及啓発を行います
- 市は、こどもの権利に関する理解や関心を深めるために、石狩市こどもの権利月間を定めます
- 石狩市こどもの権利月間は、毎年11月とします（11月20日は国連総会で児童の権利に関する条約が採択された日）

3. 条例の施行期日等

- 条例の施行期日は令和7年4月1日とします
- 本条例は、施行後5年を目途に、その内容について検討を加え、必要に応じて見直しを行います